

様々な人々との出逢い、社会との関わりの中から小説、エッセイ、ルポルタージュを書いている。最近、定義集を出版したが、この本に自分が大切だと思っている方々の振る舞い、行動する姿、表現を一人、四ページ位にまとめている。

自分の小説はよく難しいと言われるが、そうではないと思っている。どういふ社会に生きて、その人の言葉がでてきたのか？に興味がある。人間らしさの振る舞い、表現、行動する姿を書きたい。

28歳ぐらいでも小説家であるが故に政治家や普段会えない方々に合えたのは有難い。いつもサルトル的なルポルタージュを書きたいと思っていた。

☆ジャン=ポール・シャルル・エマール・サルトル(フランス語: Jean-Paul Charles Aymard Sartre, 1905年6月21日 - 1980年4月15日)はフランスの哲学者、小説家、劇作家、評論家。内縁の妻はシモーヌ・ド・ボーヴォワール。強度の斜視があり、1973年に右目を失明。サルトルは、戦後、特に50/60年代に活躍した、実存主義の代表者。「実存は本質に先立つ」という言葉を知らない者は、昔はいなかった。サルトルが第2次大戦後の日本に与えた影響はきわめて広く、また深い。哲学では竹内芳郎、文学では野間宏や大江健三郎などが、サルトルの思想を自分の仕事に生かした顕著な例として挙げられる。

ある編集者に広島原爆病院を取材しないかと言われ被爆された故・重藤文夫(広島赤十字原爆病院長)先生の話をお聞きした。お聞きした大事な言葉は30枚位のカードに書きとめた。翌日も話を聞いた。前日お聞きした内容のカードを先生にお見せしたら、素晴らしい！と言われた。都合5日間ほどお話を聞いた。ルポルタージュを書き始めたきっかけは偉大な重藤先生とお会いし原爆の地・広島の人々と接したことによる。

沖縄は今も占領下状態。沖縄の人々はどのように生きてきたのか？ノートを一杯とった。最初の頃はドルを持って行く時代だった。この沖縄が自分の二つ目のルポルタージュのテーマとなった。沖縄の人々がどのように苦しんだかを一杯話してくれた。沖縄について書かれた本は大半は読んだ。

外国の出版社がよく注目し招待してくれ、外国の作家とも交わっている。大学の日本語学科で話をした。ハーバード大学では名誉博士号をもらった。

6年前に白血病でなくなったエドワード・サイードには大変影響を受けた。彼はパレスチナ問題で楽観主義をもっていった。なぜなら、人間のやることだから……彼は意思的楽観主義を残して死んだ。

沖縄、尖閣などの問題は沖縄の人を中心に日本、中国関係者が平和になる方法がある……と信じている。

脱原発も意思的な楽観主義を持っている。チェコには尊敬する作家・ミランクンデラがいる。彼は将来、人間が生きることの出来ない世界を作ってはいけない。それが根本的なモラルと言っている。

星の王子さまの原稿は三種類あるが三番目が一番大切。どこがちがうか？形容詞が違う。第21章キツネがいなくなる場面……大切なことは、キツネが言う。「一番大切なものは」の部分が「本質的なものは」に置き換えられている。本質的なものは見えない！見えないものが大切(心)と言っている。ほかの人の見えないもの(心)を思い浮かべることが大切……と星の王子様は教えてくれる。

大野晋(おおのすすむ)さんは日本語の字引で言っておられる。日本人が一番良く使う言葉に「あわれ」と「かなし」がある。「あわれ」は相手と同じ立場にたって苦しみに対して持つ感情。「かなし」は自分の子供が死んで、会うことのできない時等に使う。源氏物語から現在まで続いている。

☆大野晋(おおのすすむ、1919年(大正8年)8月23日 - 2008年(平成20年)7月14日)は、日本の国語学者。文学博士。学習院大学名誉教授。東京府東京市深川区(現・東京都江東区)生まれ。古代日本語の音韻、表記、語彙、文法、日本語の起源、日本人の思考様式など幅広い業績を残した。特に『岩波古語辞典』の編纂や、日本語の起源を古代タミル語にあるとしたクレオールタミル語説で知られる。ほかに上代特殊仮名遣の強調、係り結びの倒置説、品詞の割合とジャンルとの関連性を指摘した大野の法則なども知られる。主著は『日本語の起源』『日本語の文法を考える』『日本語の形成』『日本語練習帳』など。